

2013年3月期 第3四半期決算 カンファレンスコール 質疑応答(要約)

Q. 売上高の進捗度と原価率は計画と比べてどうか？

A. 売上高の進捗度は一昨年、昨年に比べて高く見えますが、第4四半期の営業日数はそれぞれ一昨年に比べて2日、昨年に比べて3日少ないため計画どおりと捉えています。また原価率については計画に比べて若干低く抑えられていますがそう大きく変わらないと見ています。

Q. 最近原薬の問題がよく取り上げられている。
他社では工場を建てるところもあるようだが貴社の考え方に変化はあるのか？

A. 従来どおり原薬の複数ソース化を進める考えに変更はありません。自社製造するとしても300成分近くもの原薬を全てカバーできません。弊社が求める高品質の基準を満たしてくれる原薬メーカーから仕入れる方が望ましいと考えています。

Q. 抗がん剤のジェネリックが今後しばらく出てくるが、病院市場が伸びていない。
どうするのか？

A. 売上数量は昨年対比で増加していますが、薬価改定の影響が大きく売上金額では伸び悩んでいます。12月新製品のアナストロゾールの立ち上がりが順調なこと、病院課の体制も整ってきたこと等から、今後伸ばしていくようにしたいと考えています。

Q. 一般名処方の効果は出ているのか？

A. 効果は出ていると考えていますが、一般名処方だけの効果がどの程度なのかは不明です。薬剤服用歴管理指導料の算定ルールの見直しと一般名処方の両方のシナジー効果が出ていると考えています。

Q. 2年前は売上高の伸びに比べて販売管理費がほとんど増えなかったが、今回はかなり増えている。もうコストコントロールはし尽くしたということか？

A. コストコントロールは継続しております。新基幹システムへの投資や広告宣伝費等今後の成長に向けて使うべきものは使っていることが増加要因です。

Q. 円安でこの先100円、120円となるとどのくらいコスト増要因になるのか？
為替予約をしているのか？

A. 1ドル90円台レベルであれば大きな影響はないと考えておりますが、これが100円を超えるレベルが続くようであれば相応の影響は出てくると考えています。
原材料に関しては、輸入のほとんどが商社経由の円建取引です。